

## まちづくり市民ワークショップ 実施結果（概要）

実施日 令和5年5月28日（日）午後1時30分から3時30分  
会場 伊那市役所多目的ホール  
参加人数 29名  
全体テーマ 住んでみたいまち『いなし』ってどんなまち？～みんなで考える20年後の伊那市～

20年後の伊那市で「増えてほしいもの、減ってほしいもの、変わらずにあってほしいもの」をテーマに4グループに分かれてグループワークを行いました。

参加者より出された意見につきましては、下記のとおりです。

### 1 グラフィックレコーディングによる記録

※グラフィックレコーディング…イラストや図形等を用いることで議論を可視化して整理する手法。

#### (1) 全体のまとめ

各グループで出された意見を全体でまとめ、グラフィックレコーディングで記録しました。



主な意見は以下のとおりです。

- 提出された意見には「個人の感覚」と「市の感覚」の両方のものがあり、どちらも大事である。
- 個人の願いには不安を取り除くことが多くみられるが、不安は人によって違う。
- インフラも大事だが、人をつくっていく意識（＝教育（大人、子供を問わず））が大事。また、郷土愛を育むことが必要
- 豊かに暮らすためには、自分の地域のことを自分たちで考える、なんとかするということが大事。一人一人の関わりが住み良いまちをつくっていくため、地域を知り、多くの人に関わってもらうことが必要。
- 「伊那市には～がない」という気持ちが減ってほしい。
- 空き家を活用したい。ただ作り変えれば（壊せば）いいわけではない。

- 仕事が増えてほしい。
- 仕事とは何か…人生の大半。生活の中で重要視。多いほうが良い（稼ぎ、選択肢）。魅力ある仕事は生きがい。学んだことを活かしたい。
- 既存の職業だけでは、社会のニーズに対応できない。
- 新しいことに挑戦するときにサポートが欲しい。
- 価値観を取り入れながら、色んな意味でチャレンジできる。誰でも伊那市を変えられる。
- 自分事にして話し合える場が重要。他人事ではなく、参加している人だけのことにならないように。

## (2) グループごとのまとめ

グループ内で出された意見を基に、グループごとに願う未来の形を「○○○な伊那市」として発表していただき、グラフィックレコーディングで記録しました。



各グループの結果は、以下のとおりです。

- 「田舎都市 いなし」  
…にぎわいと都会のエッセンスのある豊かな田舎。仕事＝生きがい、基盤である。
- 「チャンスがある伊那市」  
…誰でもチャレンジ&チェンジできる環境が重要。まちは人でできている。
- 「みんなで作る伊那市」  
…いろんな意見が出てまとまらない。考え方と価値観のアップデートが必要。
- 「明日への不安がない伊那市」  
…選択肢が多様であってほしい。格差で将来が左右されないでほしい。対話が大事である。

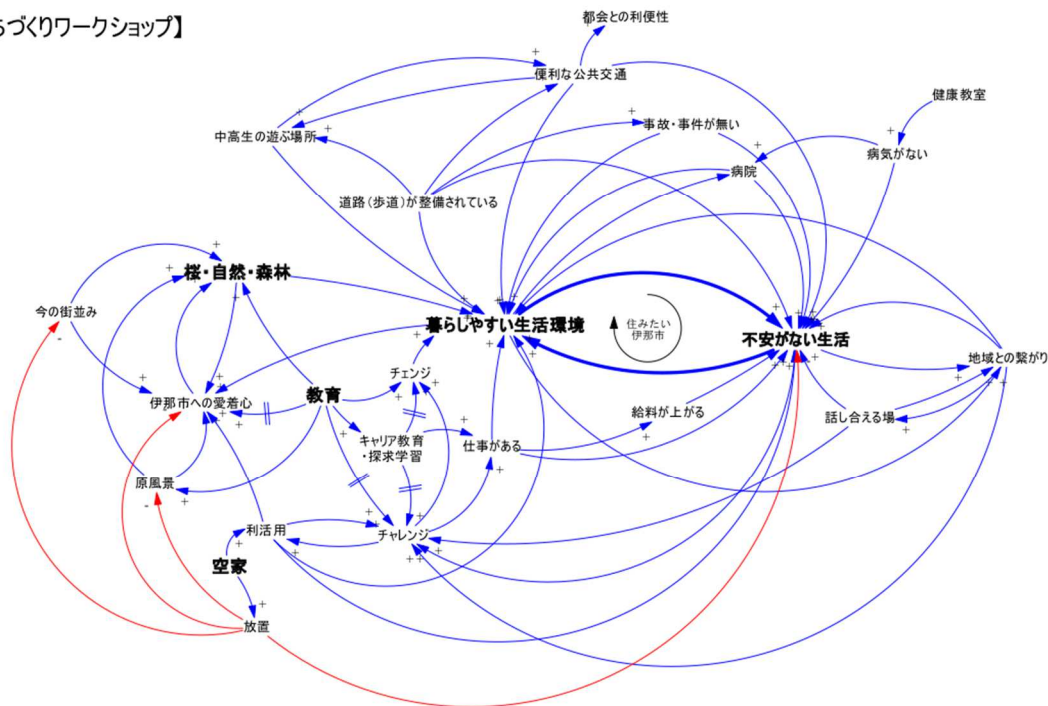
## 2 ループ図による分析

※ループ図…主要な要素及びそれらに影響を与える要素、影響を受ける要素を列挙し、要素間の因果関係を矢印で結びながら、要素間の相互作用の構造を図式化するためのツール。

グループワークで出された意見をもとに、ループ図を用いて各要素に生じる相互作用を整理しました。

青色（+）の矢印は別の要素に良い方向に作用し、赤色（-）の矢印は悪い方向に作用していることを表しています。また、矢印上の「=」は遅れて現れる影響を示しています。

### 【まちづくりワークショップ】



○「便利な公共交通」、「話し合える場」、「地域との繋がり」、「仕事」などは「不安がない生活」へと良い影響が作用しているように思われる。

「伊那市への愛着心」、「教育」といった要素が「桜・自然・森林」などに良い影響を与えているが、これらの要素は「暮らしやすい生活環境」に良い影響を及ぼすと考えられる。

「桜・自然・森林」の要素と「伊那市への愛着心」は相互に良い影響を与えていると考えられることから、自然環境は伊那市民にとって重要な要素だと考えられる。

○「道路（歩道）の整備」は良い影響を受ける要素が多く、インフラ整備の必要性も見てとれる。また、「教育」も多くの要素に良い影響を与え、そこから波及して良い影響が広がっていることから、重要な要素の一つだと考えられる。

○「空き家」についての意見が多く聞かれたが、「空き家」は放置することで「原風景」や「伊那市への愛着心」に悪い影響を与える一方、利活用することで「暮らしやすい生活環境」や「不安がない生活」へ良い影響を与えることも考えられることから、空き家に限らず施策次第で与える影響が変わることが見て取れる。

○様々な意見が出た中で、「暮らしやすい生活環境」（インフラ）が作られ「不安がない生活」（精神的な安定）が保たれることが相互に良い影響に作用し「住みたいまち伊那市」が醸成されることが考えられる。

これらの結果より、ワークショップの中でキーワードとして挙げられた、「雇用（仕事）の確保」、「交通インフラの整備」、「地域コミュニティの維持」、「教育の充実」、「豊かな自然環境や景観の保全」等への施策の推進を図り、あらゆる年代の人が住みたい、住みやすいと思うまちづくりを進める必要があります。